

2007 年度

2007 年 4 月 1 日 - 2008 年 3 月 31 日

エイズ孤児支援 N G O ・ P L A S

事業・決算報告書





1. 海外事業

1-1. ケニア共和国ニャンザ県ウクワラ地区エイズ孤児支援事業

事業地概要

ウクワラは人口が約2万人、うち半数以上が60歳以上の高齢者と孤児で形成される地域である。HIV感染に関しては統計が無いのが現状であるが、HIV/AIDSの蔓延が深刻な問題となっており、HIV/AIDSに関する正しい知識は普及しておらず、感染経路さえ知らない人が多い。そのため、エイズに対する差別やスティグマも根強く残っている。同地域のMathiwa Primary Schoolでは、同校に通う生徒600名程のうち3分の1が孤児で、その孤児の4分の3以上がエイズ孤児である。当会は同地域で2006年9月から調査をおこない、2007年2月より事業を開始した。

(1) 農業事業

2007年2月の事業開始以降、同校が継続的に農業を営み、2007年8月までの収益で合計8名のエイズ孤児のための制服を購入、授与式が行われた。また8月-9月には国際ワークキャンプにより農作業への人材提供を行い、新たな農地を開拓した。現在は玉ねぎやスクマビキなどを育てている。早朝から地域住民が作業を手伝う姿が見られるなど、地域からの事業に対する協力や理解が深まってきている様子がうかがえた。

(2) エイズ啓発ワークショップ

2007年9月8日、学校保護者や周辺地域住民にHIV/AIDSやエイズ孤児に対する理解を深めることを目的として、同校のエイズクラブや地域団体からの協力を得てエイズ啓発ワークショップを開催した。午前中に実施した無料HIV検査では、検査を受けた人が12名のみと、前回実施時よりも大幅に減少するなど、原因の分析が必要となっている。

1-2. ウガンダ共和国ワキソ県ナブウェル地区エイズ孤児支援事業



事業地概要

ナブウェル地区はカンパラの郊外のスラムであり、低所得者が多く暮らしている。HIV/AIDSに関する正しい情報は普及しておらず、HIV感染者やエイズ孤児、その家族などに対する根強い差別が残っている。また同地域のBlessed Nursery and Primary Schoolは、地域の有志によってエイズ孤児の就学のために設立された。現在約100名の生徒が通っており、そのうち約半分は孤児であり、孤児の4分の3はエイズ孤児である。当会はナブウェル地区において、2006年1月より調査を開始し、事業を行っている。2006年7月から9月にかけては同校の改築作業を行った。また学校運営のアドバイスや地域でのエイズ啓発活動、エイズ孤児就学啓発を行っている。

(1) 学校の床の改修： 2007年7月～8月

Blessed Nursery and Primary Schoolの4教室の床の改修を行った。国際ワークキャンプを開催し、多くのボランティアの参加により効率的に改修作業を行うことができた。

(2) 就学キャンペーン： 2007年8月実施

地域に教育の重要性を伝え、同校の児童数を増やすことを目的として、地域に開かれた学芸会を行った。地域をパレードで回り、同校の宣伝活動を行った。約200名が参加し、その後同校の児童が20名程増加し

(3) エイズ啓発ワークショップの実施

2007年8月11日、地域住民約150名参加のもと、エイズ啓発ワークショップを行った。ボランティアによるエイズ啓発劇やエイズ講習会により、HIV/AIDSに関する正しい情報を得ることができ、今後も続けてほしいという要望が地域から多く聞かれた。

また12月には中長期ボランティアによりHIV/AIDSの正しい知識の普及と差別解消を目的としたワークショップを開催した。数十人がワークショップに参加し、小規模ではあったが大変意義深い機会となった。

1-3. 国際ワークキャンプ事業



事業概要

現地ボランティアたちと2～3週間共同生活を行い、地域住民と、学校の建設、エイズ啓発活動、エイズ孤児たちとの交流、農作業などに取り組む、国際ボランティアプロジェクト。これまで大学生や若者と中心として、80名以上が参加した。現地での貢献のみならず、国際ワークキャンプを通じてアフリカやエイズ孤児の現状に触れたボランティアはその後、自らの体験や感じたことを発信し、少しでもエイズ孤児たちの現実を伝え、より多くの方がアフリカやエイズ、エイズ孤児に関心を持つよう働き掛け、市民として社会そのものを変える原動力となっている。

(1) ウガンダ国際ワークキャンプ

2007年8月4日—18日に実施した。PLAS調整員3名、PLAS中長期調査員1名、日本人ボランティア14名、ウガンダ人PLASスタッフ1名、ウガンダ人ボランティア5名が参加した。学校の改修作業や学芸会、日本文化紹介などを行った。参加者が後に運営スタッフとなるなど、キャンプ後にも積極的に当会にかかわるボランティアも出てきた。また、エイズ孤児やアフリカについて知り、考えることができた大変貴重な機会であったと、参加者からは高い評価を受けている。

(2) ケニア国際ワークキャンプ

2007年8月30日—9月15日に実施した。PLAS調整員2名、日本人ボランティア13名、ケニア人ボランティア5名が参加した。農作業やエイズ啓発ワークショップ、日本文化紹介などを行った。またエイズ孤児の家庭を訪問し、多くの参加者がエイズ孤児の現状について知り、考える機会となった。ウガンダ国際ワークキャンプ同様、国際ワークキャンプ後も積極的に当会に関わるボランティアもおり、また参加者の満足度も高い。

2. 国内事業



2-1. 世界エイズ孤児デーキャンペーン事業

世界エイズ孤児デーにあわせて5月1日から31日の1ヶ月間、エイズ孤児の現状をより多くの方に知らせるため、「世界エイズ孤児デーキャンペーン Pieces for Peace～あなたに伝えたい7つのノンフィクションストーリー」を実施した。

目標値には届かなかったものの、映像クリック数1300人、HPヒット数2000人、mixiコミュニティ参加者650人（コミュニティリンク11団体）と多くの方々にご協力いただいた。このキャンペーンをきっかけに、主にヨーロッパやアフリカのNGOが参加している第6回世界エイズ孤児デーキャンペーンのパートナーに正式に加盟され、日本での取り組みとして本キャンペーンが紹介されたことは評価できる。しかし、計画への着手がキャンペーン開始直前となったため、議論や準備を十分に行えなかった。

2-2. エイズ孤児認知度向上の取り組み

エイズ孤児について知らせる活動は当会の国内活動の柱である。2007年度は新たに、世界銀行やJICAの協力を得て講演会などを行うことができた。大学の授業への講師派遣依頼も増えた。

(1) 勉強会・報告会・イベント

日時	内容	場所	参加者
4月25日	エイズ孤児の現状報告会	JICA 地球ひろば	20名
5月5日	エイズ孤児の現状報告会	JICA 地球ひろば	35名
6月14日	第6回 PLAS 勉強会「グローバルエイズーわたし×エイズー」	オリンピックセンター	10名
10月14日	ユース団体合同報告会	JICA 地球ひろば	40名
10月31日	ハロウィンチャリティーイベント	Nakano F	50名

(2) 講師派遣

日時	大学名	授業名	実施者	参加者
5月10日	慶応義塾大学	高梨研究会開発経済学	門田	20名
5月15日	明治学院大学	アフリカ地域研究	門田	150名
5月18日	法政大学	アフリカの政治と社会	門田	150名
6月9日	早稲田大学大学院		門田	3名
6月12日	東松山市立東小学校	アフリカを知ろう	服部	40名
7月5日	武蔵野大学	平和学	門田	150名

(3) 講演会

日時	講演名	実施者	参加者
10月11日	世界銀行情報センター共催「アフリカのエイズ孤児～現状とその課題、現場でのユースの挑戦」（世界銀行情報センター）	門田	40名
12月1日	【講演会】「人間の安全保障からみたアフリカ～この子どもたちの未来はどうなるのか？～」（JICA 横浜）	門田	30名
3月27日	E T I C. 主催 N P O イノベーション グラント 2008 最終選考会	門田	100名

2-3. イベント出展

アフリカンフェスタ、グローバルフェスタともに記念すべき初の単独出展となった。

(1) アフリカンフェスタ

2007年5月19日—20日に開催された。アフリカンフェスタへの初の単独出展となった。またNGO報告ブースにて活動報告を行うことができ、二日間で約30名程のボランティアが参加した。

(2) グローバルフェスタ

グローバルフェスタは通常は活動実績が2年以上の団体が出展対象となるが、当会の活動実績が評価され、PLAS初の単独出展となった。世界のエイズ孤児の現状を伝えるワークショップなどを行った。

2-4. エイズ孤児に関する研究・調査活動

Weekly Newsを通じて、継続的にエイズやエイズ孤児の世界の情報を提供することができた。また、エイズ孤児についての論文の発表により、より深くエイズ孤児問題を洞察し、発信することができた。

(1) Weekly News

国内におけるエイズ孤児の情報発信を目的として、サハラ以南アフリカを中心としたHIV/AIDSやエイズ孤児関連の最新ニュースを日本語に要約し、毎週水曜日にHPなどで配信。ニュースはアフリカの地元紙や欧米の有力紙などから、エイズ孤児の現状報告から相対的なエイズ対策に至るまで幅広くカバーしている。翻訳ボランティアの確保が不十分であったため、実際は各月平均二回のニュース配信にとどまった。

(2) 資料

2007年4月にInternational HIV/AIDS Allianceから発行された、地域でのエイズ予防啓発ワークショップツール集、“Tool Together Now!”の日本語翻訳版を作成した。また、『都市問題』2007年8月号の「特集2 貧しさの中の子どもたち」に、門田が執筆した「アフリカにおけるエイズ孤児 -「人間の安全保障」の視点から-」が掲載された。

2-5. 広報活動

毎日新聞に掲載され、メールマガジンの購読者も昨年より約4.5倍に増加するなど、評価できる点も多い。ただし、広報全体を見渡した戦略を練ることができなかった。来年度は年間を通した広報戦略を立てたい。

(1) ウェブ

リンクの拡充、クリック募金のリンクや寄付ページの開設などが新たに活用された。また、HPをよりSEO対策に配慮した構成に変更するため、ウェブマーケティング講座を受講、その結果大手検索エンジンでも上位にヒットするなどの成果が見られた。しかしながらHP全体のアクセス解析が不十分である。2008年度はHPを大幅リニューアル予定で、エイズ孤児の文献データベースや英語ページの公開など、発信情報のさらなる拡充も予定されている。

(2) メディア

紹介を通じて取材を受けることが多く、プレスリリースを出すことはなかった。今後は積極的にこちらからメディアにアプローチするべきである。

2007年度のメディア露出は以下。

2008年1月16日 毎日新聞で代表が紹介される。

2008年1月1日 信濃毎日新聞で代表が紹介される。

2008年1月 AJF「アフリカNOW」79号に記事が掲載。

2007年12月1日 oh my newsで紹介記事が掲載。

2007年11月13日 東京FM「Wonderful World」出演。

2007年8月 雑誌「都市問題」に論文を掲載。

(3) メールマガジン

2007年4月～2008年3月で合計10回の配信を行った。4月と6月は配信することができなかった。2006年度末の登録者数51名であったが、2008年3月末には223人となった。これまでは「まぐまぐ」からの配信のため、ユーザー自身が登録し、さらに登録承認を行うという手間があったが、2008年度からは、独自配信も開始し、購読希望者に対して、直接登録手続きができるようにする。配信内容はイベントや活動報告、Weekly Newsなどが中心。毎回発行の日程に若干の遅れが出るが多かった。内容は量が多く見づらいため、来年度はより読者が読みやすいメールマガジンを発行できるよう、記事の書き方などにも工夫をしたい。

3. ガバナンス



財団、パナソニック NPO サポートファンドにも応募したが助成決定には至らなかった。2008 年度について、次世代リーダー育成助成（2008 年度と 2009 年度の 2 年間で 200 万円）、国際コミュニケーション基金社会的・文化的諸活動助成（74 万円）が決定している。

(3) エイズ孤児募金キャンペーン

2007 年 10 月 31 日から 12 月 25 日に初めての募金キャンペーン「コインがつなぐあなたと子ども！エイズ孤児募金」を行った。一般の寄付だけでなく、QUILT21 のエイズ孤児支援キルトプロジェクトやハロウィンチャリティーイベント、街頭募金など多くの方の協力を得て、総額 602,581 円のご協力をいただいた。

(4) 企業との連携

株式会社フェリシモより物品寄付のご協力をいただいた他、アサップネットワーク株式会社より携帯でできるクリック募金にてご協力をいただいた。しかし、全体的に積極的に企業との連携に取り組むことができなかった。

3-1. 会員制度の整備

2007 年度はこれまでの支援者のみを対象として 10 月より年額 3000 円のトライアル会員制度をスタートさせたが、そのうちのほとんどが経費となってしまうため、2008 年度の正式開始時には年額 6000 円とすることにした。また、正会員だけでなく、資金的に PLAS や事業を支えるマンスリーサポーター制度も導入する（年額 6000 円／12000 円／24000 円の 3 種）。

3-2. ファンドレイジング

本年度のファンドレイジングは計画性に乏しかったため、12 月から年度末にかけて、理事によって今後のファンドレイジングの基本方針や 2008 年度以降の 2、3 年の中長期資金的自立計画が策定された。

(1) 既存のオンラインサイトを介した募金

2007 年 5 月より携帯でできるクリック募金を開始し、毎月 3 万～12、3 万程度の寄付があった。また、大手オンライン募金サイトであるイーココロ！の審査を通過し、2008 年 3 月より寄付先として登録された。

(2) 助成金

ウガンダ国際ワークキャンプ事業が国際交流基金の市民青少年交流助成 50 万円を受けた。他にも地球市民

3-3. 組織運営

円滑な組織運営のため、理事を中心に多くの議論を行った。事務所の設立が大きな後押しとなった。

(1) 人材確保と育成

慢性的な人材不足を抱えている。6 月に新人スタッフ用の業務マニュアルを作成。会計や地域開発、NGO 経営についての講座に参加し、団体内で情報共有を行った。また、2008 年度からは事務局員を 1 名雇用することで全体的な改善を目指す。

(2) 事務局体制

海外事業や業務の拡大に伴い、事務局体制の見直しを行った。11 月 18 日に実施した臨時総会にて事務局の下に海外事業局、国内事業局、総務局と配置させるよう改定。また、11 月 8 日より事務所を目黒に開設した。活動の拠点ができ、円滑に日々の業務や会議を行うことができるようになった。

(3) 理事会

第 2 回を 2007 年 5 月 5 日、第 3 回を 9 月 29 日～30 日、第 4 回を 2008 年 1 月 13 日にそれぞれ実施した。事務局体制の見直しや海外事業の評価と中長期的な事業展望、事務所の設立等について協議を行った。

4. 2007 年度決算報告

2007 年度 収支決算書
2007 年 4 月 1 日から 3 月 31 日まで

単位 (円)

科目	2007 年予算	2007 年決算	達成率	備考
収入の部				
1. 事業収入	975,800	1,888,835	194%	国際ワークキャンプ参加登録費
2. 会費収入	0	42,000		10 月より開始
3. 助成金・補助金	500,000	500,000	100%	国際交流基金市民青少年交流助成
4. 寄付	380,000	978,254	257%	
5. 雑収入	50,000	1,994	4%	
当期収入合計	1,905,800	3,411,083	179%	
前年度繰越金	946,569	946,569	100%	
収入合計	2,852,369	4,357,652	153%	
支出の部				
1. 管理費	33800	207,635	614%	
事務所維持管理費	0	75,189		11 月より事務所開設
通信費	2000	21,086	1054%	
印刷費	26800	27,862	104%	
備品購入費	0	41,688		
消耗品購入費	0	22,810		
人材育成費	0	14,000		
雑費	5000	5,000	100%	
2. 事業費	1,436,800	1,826,060	127%	
国内事業費	68,800	55,801	81%	
ウガンダ事業費	858,000	938,750	109%	
ケニア事業費	510,000	831,509	163%	
2. 雑費	0	2,597		
当期支出合計	1,470,600	2,036,292	138%	
当期収支差額	435,200	1,374,791	316%	
前年度繰越金	946,569	946,569	100%	
次期繰越収支差額	1,381,769	2,321,360	168%	

■ 団体名	エイズ孤児支援NGO・PLAS
■ ウェブサイト	http://plas-aids.org/
■ 所在地	〒141-0021 東京都品川区上大崎3-14-58 クリエイト目黒2A
■ TEL/FAX	050-3627-0271
■ メール	info@plas-aids.org